滝大神Ⅰ遺跡

市内でも数少ない弥生時代の遺跡

滝大神Ⅰ遺跡は花巻市東和町砂子に所在し、JR釜石線晴山駅の南約2.6km、標高約170mで南から北西へ張り出す丘陵北端の微高地上に立地し、遺跡の東～北側には毒沢川の支流・滝川が北西に向かい流れています。

本遺跡は平成 12 ～ 13 年に車庫建設に伴う発掘調査が行われ、主に縄文時代晩期～弥生時代初頭 (約 3,000 ～ 2,000 年前）にかけての多量の土器が出土し、また県内でも数少ないこの時期の竪穴住居跡が 1 棟見つかりました。ただし、この住居跡の大部分は調査区外にあるため詳しい規模等は不明ですが、検出状況からみて直径 4 ～ 5m 程の円形～楕円形のものと推察されます。

また、最近では令和 4 年にほ場整備事業に伴い、(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる発掘調査も行われています。

縄文時代から弥生時代へ移行する時期の遺跡は市内でも少なく、貴重な遺跡です。